

0545








其  
他

起  
案  
算  
紙  
乙  
(  
不  
二  
納  
)

0546

62

二三編

<p>第一課長        </p>	<p>昭和十年一月十七日          軍務局長          船信者管船局長宛</p>	<p>内海水道航行規則改正ノ件          答          客年十二月二十五日附海芽四七〇八號照會ノ旨          題ノ件當省トシテ意見見立ニ候          (水務局長官署ニ付見立並ニ送付)</p>	<p>水路部          第一課長              兼          港務            11. 1. 18          接受          (10. 12. 500.)</p>
--	--	---	---

模造半葉十三行界紙 (富井納)

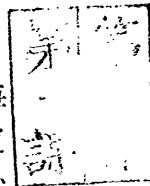
海軍

0547



軍務局

海第四七〇八號

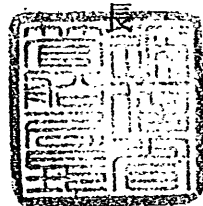


海軍省軍務局長殿



昭和十年十二月廿三日

遞信省 管船局



内海水道航行規則改正ノ件  
内海水道航行規則中別紙案ノ通改正ノ見込ニ有之候處御意見モ有之候ハ、折返シ御回報相成度候

遞信省

軍務局  
10.12.24  
第二課

遞信省經理局印

## 内海水道航行規則中改正案

第一條第一項及第二項中「來島海峡」ノ次ニ「、釣島水道」ヲ、第三項中「男木島燈臺ヨリ」ノ次ニ「カナワ岩燈標、高島ノ北端、大串埼、地藏崎、黒崎、」ヲ、第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

釣島水道 釣島ノ北端ヨリ琴引鼻、頭埼、野忽那島燈臺、甫埼及小市島ノ頂ヲ經テ釣島ノ北端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

第四條ノ二 海上衝突豫防法第二條第五號ノ規定ニ依リ増掲スルコトヲ得ル白燈ハ第一條ノ水域航行中ノ長サ四五。七メートル以上ノ汽船ニ限り常ニ之ヲ掲ゲ置クベシ但シ船舶ノ構造上之ヲ掲グルコト能ハザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 汽船ハ備讃瀬戸及釣島水道ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一 島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スルコト困難ナル場所ニ於テハ其ノ島

嶼岬角等ヲ右舷ニ見ル汽船ハ之ニ近寄り左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠ザ

カリテ航行スルコト

二 海上衝突豫防法第二十五條ノ適用ヲ受ケザル場所ニ於テモ尙同條

ニ規定スル航法ニ依ルコト

三 波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條第一項第三號ノ次ニ

四 中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ又ハ今治方面ヨリ中水道若

ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ中水道若ハ西水道ヲ通航シテ東行

若ハ西行スル汽船ノ進路ヲ避クベシ

ヲ加へ同條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ航行スル汽船ハ中渡島ニ竝航シタルトキヨリ今治港防波堤燈臺ノ沖合迄又今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ今治港防波堤燈臺ノ沖合ヨリ中渡島ニ竝航スル迄晝間ニ在リテハ最見易キ場所ニ國際信號旗第一代表旗ノ下ニCヲ掲ゲ夜間ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回四長聲ヲ發スベシ

第八條 汽船ハ下關海峡ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一 早瀬瀬戸（祀ケ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鷗ケ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域）ヲ西行セントスル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ鷗ケ鼻ニ引キタル線ニ遠スル前門司埼燈標ヨリ

満珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又早朝瀬戸ヲ東行セントスル汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ巖流島燈臺ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコトニ總噸數百噸未滿ノ汽船ハ前號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出來得ル限り門司埼ニ近寄りテ航行シ行逢ヒタルトキハ東流ノ場合ニ在リテハ互ニ右舷ヲ相對シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過シ且門司埼以東火ノ山ノ頂ヨリ鷲ヶ巢鼻ニ引キタル線以西ノ水域ニ於テハ門司埼燈標ヨリ八十三度（眞方位）ニ引キタル線（下關高燈ト門司埼燈標トノ一線）以南ヲ航行スルコト（若シ門司埼ニ近寄りテ航行シ能ハザルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト）

三 第一號ノ汽船行逢ヒタルトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト

四 第一號ノ規定ニ依リ早鞆瀬戸ヲ東行中ノ汽船ハ第二號ノ規定ニ依リ同瀬戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見。西行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト又第二號ノ規定ニ依リ早鞆瀬戸ヲ西行中ノ汽船ハ第一號ノ規定ニ依リ同瀬戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見。東行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト

五 潮流ニ遡リ早鞆瀬戸ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度（水路部刊行潮汐表及下關海峽潮流圖ニ依ル）ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速力ヲ保ツコト

六 下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生ズル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生ゼザル程度ノ速力ニテ航行スルコト



0553

帆船ハ早瀬瀬戸ニ於テハ航行スベカラズ

附 則

本令ハ昭和 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

内海水道航行規則改正新旧対照

第一條 本令ハ備讃瀬ヲ、來島海峡及下関海峡並

ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス

本令ニ於テ備讃瀬ヲ、來島海峡及下関海峡又劍島水

道トハ在リ水域ヲ謂フ

備讃瀬ヲ、男木島燈臺ヨリコトシテ岩燈標、高島九

瀬、大平燈標、地藏崎、黒崎、豊島、南端、大槌島、頂、

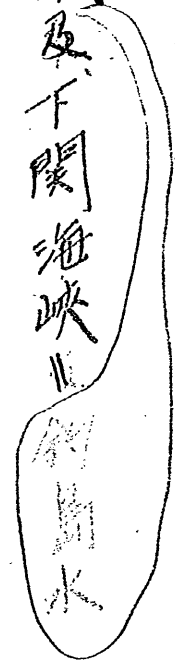
小狭島、南端、本島、シヨクノ本鼻及黒鼻、佐柳島

、南西端、三面島、頂、高見島板持鼻、沖洲、桂燈浮

標、牛島九五米山、頂、ミナト島燈臺、小瀬唇島、頂及小

槌島、頂、經テ男木島、南端ニ引ケル線ニ依リテ水

域



来島海峡 (畧)

下関海峡 (畧)

金州水道

朝鮮半島の東端にあり、黄海と日本海とを繋ぐ。長約400km、幅約100km。

日本海と東シベリアの海とを繋ぐ。長約1000km、幅約100km。

津軽海峡

日本海と太平洋とを繋ぐ。長約100km、幅約100km。

津軽海峡は、日本海と太平洋とを繋ぐ。長約100km、幅約100km。

津軽海峡は、日本海と太平洋とを繋ぐ。長約100km、幅約100km。

津軽海峡は、日本海と太平洋とを繋ぐ。長約100km、幅約100km。

津軽海峡は、日本海と太平洋とを繋ぐ。長約100km、幅約100km。

ルビ

一 (畧)

二 津軽海峡は、日本海と太平洋とを繋ぐ。長約100km、幅約100km。

波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航

行スルヲト

第六條 汽船ハ末島海峡ニ於テハ左ノ航法ニ依ルヘシ

一(裏)

二(裏)

三(裏)

中水道者ハ東水道ヨリ今迄方面ニ向リ又ハ今迄方面

ヨリ中水道者ハ東水道ヨリ航行スル汽船ハ中水道者

ハ西水道ヲ通過シテ東行若ハ西行スル汽船ハ進路ヲ避ケル

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ

瀬鼻又ハ龍神島ニ至ルルトヤヨリ中水道又ハ西水道

ヲ通過シ終ニ送汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回在リ信標ヲ衝スヘシ

中水道通航汽船

一長聲

西水道通航汽船

ニ長聲

小島波止瀨間、水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ航シ、リルトモ、西水道ヲ通過シ、結ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回ニ長聲ヲ發スヘシ

中水道若ハ東水道ニハ、汽笛ヲ行ハズ、汽船ハ中渡島汽船ニカクルモ、今治港向波埃燈臺、沖合迄ハ今治方面ヨリ中水道若ハ東水道向ハ航行ス、尚雖ハ今治港防波堤燈臺、沖合ヨリ中渡島汽船ニ航シ、結ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回ニ長聲ヲ發スヘシ、又ハ、長見島又ハ島洲ノ風際、信州、河川、指ガ夜間ニ航スル汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回ニ長聲ヲ發スヘシ

第八條 汽船ハ下関海峡ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一 某ヨリ下関瀬戸ノ汽船ヨリ下関燈塔ヨリカクル線及對岸ヨリ下関瀬戸ノ汽船ヨリカクル線ニ依リ、西行ヒト

大汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ貫キ葉鼻ニ引キタル線ニ達スル前門  
 司崎燈標ヨリ満珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルトモ東  
 中前中前燈標ヨリ東行セントスル汽船ハ下関高燈ヨリ三ノ山  
 ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司崎燈標ヨリ巖流島燈標  
 ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルト

南水道ヨリ西行スル汽船ハ南水道南ヨリ東行スル汽船ノ前  
 緯規定ヲ拘リス相違ハ危險ナシ通航得ル限度船ヲ航行セ  
 百噸未満ノ汽船ハ前押ノ規定ニ依リ入ルトモ得ル場合ニ在  
 テ出來得ル限リ門司崎ニ近傍リテ航行セ行邊ニ引キタル東  
 流ノ場合ニ在リテ其ノ右舷ヲ相對シ其ノ他ノ場合ニ在リテ其ノ左  
 舷ヲ相對シテ航行セ且門司崎ノ東非ハ火ノ山ノ頂ヨリ貫キ葉  
 鼻ニ引キタル線以西門司崎燈標ヨリ八十度(度)ニ引キタル線  
 (下関高燈ノ門司崎燈標ノ線)以南ノ水域ニ航行セト

若し同司近傍にて航行し能はれども前所規定依り航行せしむ

三 第一種汽船行進ニシテトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過セヨト

四 第一種汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

五 第二種汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

六 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

七 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

八 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

九 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十一 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十二 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十三 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十四 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十五 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

十六 汽船行進ニシテ東行中汽船ハ第一種汽船ノ規定ニ依リ航過セヨト

御船海軍省軍務局々々敬



内海水道航行規則改正案ニ對スル再回答覺書

(對遞信省永野技師解説十一、一、一〇 水路部)

意見第二(増掲燈常時掲揚ニ關スル件)ハ原案ヲ修正セラレタル(但シ書補記)ヲ以テ自然解消ス(意見削除)

意見第四 第六條第一項第四號中「中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ又ハ今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ガ晝間國際信號旗ヲ揚グル」件ハ右信號ハ國際信號ノ意味ヲ有セザルモノ(例ヘバ第一代表旗及C旗連綴ノ如キ)ナルコトヲ條件トシ且

(1) 右信號旗(標識)ハ中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ、又ハ今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ナルコトヲ表ハス

(2) 而シテ右汽船ハ本號第一段ノ規定ニヨリ「中水道若ハ西水



海軍



道ヲ通過シテ東行若ハ西行スル汽船ノ進路ヲ避クベキ義務  
ヲ有スルモノナリ

ト解釋シテ本改正案ニ同意ス

≡意見第五 第八條第一項第二號中「百噸未滿ノ汽船ガ第一號ノ  
規定ニ依ラザル場合ニ於テ出來得ル限り門司埵ニ近寄りテ航  
行シ行逢ヒタルトキハ東流ノ場合ニ在リテハ互ニ右舷ヲ相對  
シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過」スル件  
並ニ右ノ場合右汽船ガ航行スベキ水域ニ關スル規定ハ不文律  
的ノ習慣ナリト承知スルヲ以テ特ニ法文ニ規定スル必要ナシ  
ト認ムルモ強テ之ニ反對スルモノニアラズ

(終)

海軍